

感染症定期報告感染症別文献一覧表(2019/12/1~2020/3/31)

令和2年7月3日
令和2年度第1回
医薬品等安全対策部会
資料 4-1

ID	感染症(PT)	出典	概要
1	A型肝炎	ProMED-mail 20190822.6635382	米国Las Vegas保健当局は主にホームレス及び薬物使用者の間でA型肝炎が急増していると説明している。2018年11月から2019年6月にかけて、A型肝炎ウイルス感染83例が集計されたが、これは、2016年、2017年及び2018年に報告された症例の合計58例をはるかに超えている。報告された患者の80%以上が住居不定であり、92%が薬物を使用している。
2	B型肝炎、C型肝炎	J Intern Med. 284(2018)92-103	スカンジナビアのデータベースを用い、肝炎誘発性の未知の病原体が献血血液中に存在し得るかを調査した。1,482,922例の受血者について解析を行った結果、献血血液に対するB型肝炎ウイルス(HBV)及びC型肝炎ウイルスのスクリーニングが導入されて以降、輸血による肝疾患の伝播は認められず、輸血による肝炎の発症は、まれであることが示唆された。
3	E型肝炎	J Med Virol. 91(2019)124-131	米国において、National Health and Nutrition Examination Surveyのデータを用い、2013-2014年の7,656例、2015-2016年の7,124例をサンプルとし、E型肝炎ウイルス(HEV)の血清陽性率を比較した。全体的な加重HEV(IgG / IgM)血清陽性率は2013-2014年の5%(95%信頼区間: 3.9-6.1%)から2015-2016年の7.7%(95%信頼区間: 7.2-10.5%)に増加した。過去の研究では、加齢がHEVに関連する唯一の重要な要因であることが報告されたが、本研究では、「非ヒスパニック系アジア人」の属性が、年齢因子単独よりもHEVの血清陽性と強い関連性があった。
4	E型肝炎	日本輸血細胞治療学会誌. 64(2018)820-821	日本における輸血による急性E型肝炎1例の報告。多発性骨髄腫の70歳男性に対し、2単位の赤血球液製剤2本及び10単位の濃厚血小板製剤2本を輸血した。その後、血液検査で肝機能異常が認められ、肝生検でウイルス性肝炎又は薬剤性肝炎が疑われた。献血者検体4本のうち1本でHEV-NATが陽性であり、HEVの塩基配列は輸血後の患者から検出されたHEVのものと一致した。このことから輸血による急性E型肝炎と診断した。検出されたHEVはgenotype 3であった。
5	E型肝炎	日本輸血細胞治療学会誌. 65(2019)409	日本において、輸血療法後の化学療法中に急性肝障害をきたしHEV-IgA抗体が陽性となった1例の報告。多発性骨髄腫の78歳男性、最終輸血約1年後に肝胆道系酵素の上昇傾向があり、その後、採血上の黄疸、肝胆道系酵素の急上昇があり入院した。HEV-IgA抗体は陽性であったがHEV-RNAは陰性、井戸水の使用なし、猪肉などの摂取なしであった。HEV-RNAは陰性であり、確定診断には至らなかった。
6	E型肝炎、ブドウ球菌感染、B型肝炎	PHE Health Protection Report. 13(2019)25-2	英国では、2018年の1年間で、輸血伝播が確認されたHEV感染が1例、輸血伝播が疑われる表皮ブドウ球菌感染及びHBV感染が各1例あった。また、感染したドナーの血液を輸血されたレシピエントから黄色ブドウ球菌が遅れて検出された症例が1例あったが、輸血による感染症につながったという証拠はない。
7	E型肝炎、B型肝炎、ブドウ球菌感染	PHE Health Protection Report. 13(2019)31-2	英国では、2018年の1年間で、輸血伝播が確認されたHEV感染が1例、輸血伝播が疑われる表皮ブドウ球菌感染及びHBV感染が各1例あった。
8	インフルエンザ	CDC MMWR. 68(2019)880-884	米国において、2019年5月19日~9月28日の間で、インフルエンザA(H1N1)変異型ウイルスのヒト感染1例が報告された。当該ウイルスは、季節性ヒトインフルエンザA(H1N1)pdm09ウイルスに由来するノイラミニダーゼ遺伝子のセグメント及び血球凝集素を有していた。この季節性ヒトインフルエンザA(H1N1)pdm09ウイルスは、人獣共通感染症としてブタに導入された可能性があり、現在米国のブタにおいて循環しているインフルエンザA(H1N1)ウイルスと密接に関連していた。
9	インフルエンザ	Transbound Emerg Dis. 66(2019)2184-2187	北アイルランドの呼吸器疾患徴候を呈し死亡したウシ試料の検査で、これまで英国では報告されたことのないインフルエンザD型ウイルスが検出された。

ID	感染症(PT)	出典	概要
10	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis. 25(2019)2215-2225	2014年12月～2016年4月に中国各地の家禽労働者1,407例から血清試料2,124検体を採取し、鳥インフルエンザウイルス(AIV)H5N1、H5N6、H6N1、H6N6、H7N9、H9N2及びH10N8の抗体プロファイルを調べた結果、H10N8以外の亜型について血清陽性が認められた。家禽労働者集団における無症候性のヒトAIV感染に関する血清学的エビデンス及びそれに対応するAIV感染リスク因子が示された。
11	鳥インフルエンザ	Emerg Microbes Infect. 9(2020)88-94	中国南部のブタ集団においてAIV H10N8に対する特異的抗体を初めて検出した。また、ヒト由来H10N8株がブタに感染し、臨床徴候、ウイルス排出、抗体陽転を引き起こすことが確認された。さらに、ヒト分離株はブタ間で直接接触により非効率的に伝播する可能性がある。
12	鳥インフルエンザ	IASR. 40(2019)190-192	日本国内ではいまだ、AIVのヒト感染事例は報告されていないが、周辺国では散発的にヒト感染事例が報告されている。世界各地の家禽や野鳥の間で鳥インフルエンザは蔓延しており、それらのウイルスがヒトに感染する可能性は十分に考えられるため、引き続き注視していく必要がある。
13	鳥インフルエンザ	J Vet Med Sci. 82(2020)101-108	2012年3月～2014年10月の間に、中国遼寧省のニワトリから遺伝子再集合により作り出された10の新規AIV H9N2が分離された。ヌクレオチド配列の比較により、うち1つの株の内部遺伝子がヒトH7N9ウイルスのものと非常に類似していることが示された。ヘマグルチニン及びノイラミニダーゼのアミノ酸残基の置換及び脱落が独立して発生しており、これら10の分離株すべてにおいて、哺乳類への感染能力が強化されている可能性があることが示された。
14	デング熱	ECDC Rapid Risk Assessment. 2019/11/18	スペインMadridで、性交渉を行った男性2例の間で、デング熱の性感染が確認された。
15	デング熱	Outbreak News Today. http://outbreaknewstoday.com/dengue-sexual-transmission-reported-in-madrid-45857/amp/?_twitter_impresion=true	スペインMadridで、性交渉を行った男性2例の間で、デング熱の性感染が確認された。
16	デング熱	ProMED-mail 20191110.6771625	スペインMadridで、性交渉を行った男性2例の間で、デング熱の性感染が確認された。
17	デング熱	WHO ホームページ. https://www.who.int/csr/don/29-november-2019-dengue-spain/en/	スペインMadridで、性交渉を行った男性2例の間で、デング熱の性感染が確認された。
18	デング熱	Infect Dis(Lond). 51(2019)150-152	韓国で、女性から男性へのデングウイルス性感染が示唆された。
19	コロナウイルス感染	N Engl J Med. 382(2020)727-733	2019年12月、原因不明の肺炎患者群が、中国武漢市の海鮮卸売市場と関係があることが報告された。肺炎患者由来の検体から過去に知られていないウイルスが単離され、2019-nCoVと命名された。2019-nCoVは、ヒトに感染性をもつコロナウイルスとして7種目である。
20	コロナウイルス感染	ProMED-mail 20200211.6979942	世界保健機関(WHO)は中国湖北省武漢市で最初に認められた新型コロナウイルスによる疾患を「COVID-19」と命名した。新型コロナウイルスは「重症急性呼吸器症候群コロナウイルス2」、あるいは「SARS-CoV-2」と命名される予定である。
21	コロナウイルス感染	ProMED-mail 20200110.6881082	中国当局は、武漢で肺炎により入院した患者1例において同定されたウイルスが新型コロナウイルスであるとの暫定的な決定を行った。
22	コロナウイルス感染	ProMED-mail 20200121.6901757	中国で拡大している新型コロナウイルスによる肺炎を調査している中国の専門家は、ヒトからヒトへの感染が確認されたと述べた。

ID	感染症(PT)	出典	概要
23	コロナウイルス感染	WHO ホームページ. https://www.who.int/csr/don/12-january-2020-novel-coronavirus-china/en/	新型コロナウイルスのアウトブレイクは中国武漢市の1つの海産物市場での曝露と関連性が強く示唆され、この市場は2020年1月1日に閉鎖された。中国当局は、2020年1月7日に新型コロナウイルスを分離し、同定した。1月11日及び12日に中国当局からWHOに伝えられた情報によると、武漢市で新型コロナウイルス感染が暫定的に41例診断され、症状の発症日は、2019年12月8日～2020年1月2日であった。41例中7例が重症で、基礎疾患がある1例においては死亡が報告された。
24	コロナウイルス感染	WHO ホームページ. https://www.who.int/csr/don/16-january-2020-novel-coronavirus-japan-ex-china/en/	日本において、2019-nCoVによる初めてのヒト感染1例が確認された。
25	コロナウイルス感染	WHO ホームページ. https://www.who.int/csr/don/17-january-2020-novel-coronavirus-japan-ex-china/en/	2020年1月15日、日本の厚生労働省は、2019-nCoVの中国湖北省武漢市からの輸入症例を1例報告した。当該患者は12月下旬に武漢市に渡航し、滞在中の2020年1月3日に発熱を呈した。武漢市の華南海鮮卸売市場を含め、いずれの生きた動物の市場も訪れていなかったが、肺炎のヒトと濃厚な接触があったと述べている。武漢市からの2019-nCoV輸出症例3例のうち、2例目の症例である。
26	コロナウイルス感染	CDCホームページ. https://www.cdc.gov/coronavirus/2019-nCoV/summary.html(update2020/02/05)	米国において、渡航者に2019-nCoV感染の輸入症例が確認された。中国武漢市からの渡航者との濃厚接触による2019-nCoVのヒト-ヒト感染が確認されたが、現段階で、本ウイルスは米国国内では感染拡大していない。
27	コロナウイルス感染	CDCホームページ. https://www.cdc.gov/coronavirus/2019-ncov/summary.html(update2020/02/19)	米国において、渡航者に2019-nCoV感染の輸入症例が確認された。中国武漢市からの渡航者との濃厚接触による2019-nCoVのヒト-ヒト感染が確認されたが、現段階で、本ウイルスは米国国内では感染拡大していない。
28	コロナウイルス感染	CDC ホームページ. https://www.cdc.gov/media/releases/2020/p0121-novel-coronavirus-travel-case.html	米国疾病予防管理センターは、2020年1月21日、ワシントン州において米国で初めての2019-nCoV感染症例を確認した。この患者は、2019年12月以降この新型コロナウイルスが原因の肺炎のアウトブレイクが継続している中国の武漢市から、2020年1月15日に帰国していた。当初は動物からヒトへ広がっていると考えられていたが、ウイルスが人々の間でいかに容易に広がっているかは不明である。アジアで本ウイルスによる一部の限定的なヒトからヒトへの拡散が発生していると確認されたことで、このウイルスに関する懸念のレベルは高まっている。
29	コロナウイルス感染	ProMED-mail 20200121.6903878	2020年1月21日、米国保健当局は、ワシントン州在住の30代男性が、2019-nCoV感染と診断され、米国で最初の確認症例であることを公表した。同日、台湾の中央感染症指揮センターは、中国から帰国した台湾南部居住の50代女性が2019-nCoV重症肺炎の最初の症例であることを公表した。中国国家衛生健康委員会によると、2020年1月21日の2019-nCoV感染流行状況の調査で中国以外にタイで2例、日本及び韓国で各1例の確認症例が報告されている。
30	コロナウイルス感染	CDCホームページ. https://www.cdc.gov/media/releases/2020/p0130-coronavirus-spread.html	米国において、2019-nCoVによる初めてのヒト-ヒト感染例が確認された。
31	コロナウイルス感染	J Virol. 93(2019)e01448-19	ブタ急性下痢症候群コロナウイルスのブタとコウモリ以外の宿主について検討した。様々な細胞系を用いた結果、マウス、ラット、アレチネズミ、ハムスター、ニワトリ、サル、ヒトの細胞株にも感染可能であることが示された。
32	牛痘	J Eur Acad Dermatol Venereol. 33(2019)e8-e10	12歳の少年が、ラットや家畜と接触の後、壊死性潰瘍、微熱及びインフルエンザ様症状を発現した。16歳の兄も壊死性潰瘍、発熱を発現した。兄は弟及び妹と濃厚接触があったが、家畜や野生動物との接触機会はなかった。患者の検体をPCR検査した結果、牛痘ウイルスが検出された。以上から、牛痘ウイルスのヒト-ヒト感染の可能性が示されている。

ID	感染症(PT)	出典	概要
33	ワクシニアウイルス感染	Emerg Infect Dis. 25(2019)2169-2176	2014年及び2015年にコロンビアの農場労働者の間で、オルソポックスウイルス属のワクシニアウイルス感染が確認された。2016年に、56農場の労働者及びその家族134例の血清試料を分析した結果、70例がオルソポックスウイルス抗体を有していた。56農場のうち22農場がワクシニア様病変を有する動物を報告した。ウシはワクシニア様病変を有することが知られている唯一の家畜であったが、1農場は同様の病変を有するブタについて報告した。
34	重症熱性血小板減少症候群	Emerg Infect Dis. 25(2019)2127-2128	重症熱性血小板減少症候群ウイルス(SFTSV)RNAが血清中で消失した後、精液中で検出された症例を報告する。この結果は、SFTSVの性的伝播の可能性を示している。
35	重症熱性血小板減少症候群	Emerg Microbes Infect. 9(2020)148-151	台湾において、ウシ、ヒツジ及びブイヌの血清試料とウシから採取したダニを分析した結果、ウシ及びヒツジがこれまで台湾で報告されていなかったSFTSVに感染していること、ダニがSFTSVを保有していることが示された。
36	重症熱性血小板減少症候群	PLoS Negl Trop Dis. 13(11)(2019)e0007242	2016年4月から5月にかけて、中国河南省で健康な被験者1,463例を対象にSFTSVの抗体保有率について検討した。IgG抗体陽性率は10.46%(153例/1,463例)、IgM抗体陽性率は0.82%(12例/1,463例)で、IgM抗体陽性の12例中6例がSFTSV-RNAが陽性であった。IgG抗体陽性者の1カ月後の追跡調査で、重症熱性血小板減少症候群に関連する症状は認められなかった。無症候性のSFTSV感染に係る最初の報告である。
37	フラビウイルス感染	Parasit Vectors. 12(2019)450	Alongshan virus (ALSV)はヒト熱性疾患に関連する新興フラビウイルスで、循環と伝播における家畜の役割は検討されていない。中国北部の内モンゴル自治区におけるヒツジ及びウシの血液試料の分析で、ALSV感染が示された。
38	ウイルス感染	Emerg Infect Dis. 25(2019)681-690	ケニアのハエから新規ウイルスが単離され、Ntepesウイルス(NPV)と命名された。当該ウイルスは野生動物、家畜及び人間に由来する多様な細胞株への感染能を有し、また、マウスへの感染実験では急速かつ致死的な病原性を示した。NPVが分離された地域及びケニア北東部の別の地域のヒト血清サンプルにおけるNPV中和抗体陽性率は13.9%(26例/187例)であり、NPVの広範な分布を示唆している。
39	ウイルス感染	IASR. 41(2020)11-13	マダニと思われる虫刺咬後、発熱と下肢痛を主訴に受診し、過去に報告されていない新規オルソナイロウイルスが検出された北海道在住の40歳代男性の症例報告である。患者の病態からウイルス性熱性疾患が強く疑われ、遺伝子解析により患者血清及び尿から新規のオルソナイロウイルスを検出し、Yezo virusと命名した。患者は入院治療後、後遺症なく退院した。
40	ウイルス感染	ProMED-mail 20200201.6937053	マダニと思われる虫刺咬後、発熱と下肢痛を主訴に受診し、過去に報告されていない新規オルソナイロウイルスが検出された北海道在住の40歳代男性の症例報告である。患者の病態からウイルス性熱性疾患が強く疑われ、遺伝子解析により患者血清及び尿から新規のオルソナイロウイルスを検出し、Yezo virusと命名した。患者は入院治療後、後遺症なく退院した。
41	ウイルス感染	ProMED-mail 20191129.6803152	日本において、サル動物実験を実施した医薬品開発企業の従業員1例がBウイルスに感染した。海外では感染例が約50例認められているが、日本で感染が確認されたのは、本症例が初めてである。
42	クロイツフェルト・ヤコブ病	Department of Health & Social Care UK. https://www.gov.uk/government/publications/vcjd-transmission-by-blood-components-risk-assessment	数理モデルを用いて、輸血用血液製剤による変異型クロイツフェルト・ヤコブ病感染リスクを評価した、英国保健福祉省のテクニカルレポート。赤血球製剤は、今後50年間に9,000万回の輸血に対しおよそ0-62例、血漿製剤は、今後50年間に1,400万回の輸血に対しおよそ0-31例、血小板製剤は、今後60年間に1,900万回の輸血に対しおよそ0-84例と予測された。
43	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	OIE Weekly Disease Information. 2019/07/15	2019年7月10日、スペインのガリシア州でウシ1頭において非定型の牛海綿状脳症(BSE)H型が確認された。
44	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail 20190717.6572098	2019年7月10日、スペインのガリシア州でウシ1頭において非定型のBSE H型が確認された。

ID	感染症(PT)	出典	概要
45	レンサ球菌感染	ProMED-mail 20190906.6660853	2019年、タイ保健省疾病管理局は2019年8月17日までに、23例の死亡を含む265例の <i>Streptococcus suis</i> 感染症例を報告している。2018年には、タイは338例の感染例及び29例の死亡を報告した。
46	ウシ結核	Emerg Infect Dis. 25(2019)2284-2286	英国において、ネコ1匹からヒト2例へのウシ型結核菌伝播が微生物学的及び遺伝学的に確認された。
47	大腸菌感染	ProMED-mail 20190919.6682768	米国ミネソタ州で開催された農場フェアに参加した11例が腸管出血性大腸菌O157に感染した。感染源は調査中だが、家畜との接触、汚染された手すり等への接触による感染が考えられる。
48	Q熱	Parasitol Int. 74(2020)1-7	中国北西部 新疆ウイグル自治区(XUAR)のウシにおける、ダニ媒介感染症の疫学的特徴をネステッドPCR及び遺伝子シーケンスにより分析した。195検体中、24検体(12.3%)、67検体(34.4%)、40検体(20.5%)及び10検体(5.1%)がそれぞれ <i>Babesia bovis</i> (<i>B. bovis</i>)、 <i>Babesia bigemina</i> (<i>B. bigemina</i>)、 <i>Coxiella burnetii</i> (<i>C. burnetii</i>) 及び <i>Anaplasma bovis</i> (<i>A. bovis</i>) に陽性で、 <i>B. bovis</i> SBP-4、 <i>B. bigemina</i> Rap1a、 <i>C. burnetii</i> htpB 及び <i>A. bovis</i> 16S rRNA 遺伝子は、他国からの分離株と99%~100%の同一性を示した。XUARのウシにおける、 <i>C. burnetii</i> 感染の最初の報告である。
49	ボルデテラ感染	Can J Cardiol. 35(2019)1604.e17-1604.e19	米国において、 <i>Bordetella hinzii</i> (<i>B. hinzii</i>) により固有弁心内膜炎を発症した患者のケースレポート。53歳の白人女性が3週間にわたって疲労、発熱、息切れ、咳嗽を呈し、入院から6日以内に急性腎不全、高トランスアミナーゼ血症及び乳酸アシドーシスを発症した。2セットの血液培養により <i>B. hinzii</i> が同定された。 <i>B. hinzii</i> は血流を介して全身に拡がり、健康人においても心内膜炎を引き起こす可能性がある。
50	ボレリア感染	第60回日本熱帯医学会大会(2019/11/08-2019/11/10)P-46	ザンビア共和国において、洞窟でダニに噛まれて発熱した患者の血液から未知のボレリア属細菌が単離された。遺伝子解析の結果、未知のボレリア属細菌は単系統を形成しており、 <i>Candidatus Borrelia fainii</i> と命名された。
51	リステリア症	ProMED-mail 20190907.6662490	スペイン史上最も大規模なリステリア症のアウトブレイクで、これまでに200例を超えるヒトが影響を受けており、3例が死亡、7例が流産している。
52	リステリア症	WHO ホームページ. https://www.who.int/csr/don/16-september-2019-listeriosis-spain/en/	スペイン アンダルシア州の保健当局は、冷蔵ローストポーク製品の摂取と関連したリステリア症のアウトブレイクを報告した。2019年7月7日から9月13日までに、スペインの5つの地域から本アウトブレイクに関連した感染確定例が222例報告された。
53	細菌感染	IASR. 40(2019)15-16	ザンビアにおいて、新種のボレリア属細菌 <i>Borrelia fainii</i> による初めてのヒト感染1例が確認された。
54	細菌感染	Transfusion. 59(2019)3549-3550	9種類の細菌を接種した全血及び未接種の全血からクリオプレシピテートを調製し、凍結融解後、未接種の全血から調製したクリオプレシピテートには9種類の細菌を、もう一方のクリオプレシピテートと同濃度接種し、両製剤を室温で5日間保存した。調製後に細菌を接種した製剤は、9種類全ての細菌で増殖を認められたが、細菌接種後の全血から調製した製剤では、3種類の細菌で増殖を認めなかった。
55	細菌感染	日本獣医師会雑誌. 72(2019)686-690	2017年5月、ウシの流産胎子の肺からグラム陽性球菌が分離され、16SrRNA遺伝子解析により <i>Helcococcus kunzii</i> (<i>H. kunzii</i>) と同定された。病理組織学的検査では化膿性気管支肺炎が認められ、分離菌と交差反応を確認した抗 <i>Helcococcus ovis</i> 抗体を用いた免疫染色で陽性反応が認められたことから、 <i>H. kunzii</i> が流産に関与していた可能性が示唆された。ウシの流産胎子から <i>H. kunzii</i> が分離された事例は、今までに報告がないため、今後さらなる症例の蓄積や検討により <i>H. kunzii</i> のウシへの病原性を解明する必要がある。
56	バベシア症	Emerg Infect Dis. 25(2019)2257-2260	<i>Babesia venatorum</i> は主に野生のシカに感染する人畜共通感染症病原体であるが、スコットランド北東部のヒツジ及びウシの血液サンプルを分析した結果、ヒツジにおける感染が示された。
57	トキソプラズマ症	Parasitol Int. 74(2020)1-6	モンゴルの17の州及び首都から1,078頭のヤギ及び882頭のヒツジの血液サンプルを採取し、 <i>Toxoplasma gondii</i> の血清有病率を調査した結果、それぞれ32%及び34.8%であり、モンゴルの小型反芻動物におけるトキソプラズマの高い血清有病率が示された。

ID	感染症(PT)	出典	概要
58	原虫感染	Emerg Infect Dis. 25(2019)2088-2092	ブラジルにおいて、新規原虫による初めてのヒト感染1例が確認された。